

エビス 造粒固化・堆肥化を展開 渡辺サー 新規事業に約10億円を投資

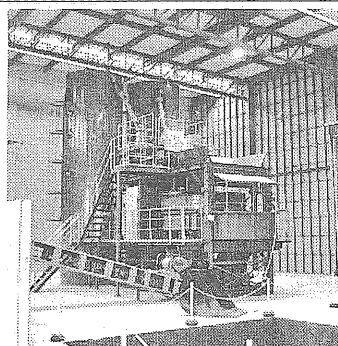
渡辺エコサービス（福島県いわき市、渡辺啓治社長、☎024・6・56・7233）は昨年12月7日、無機性汚泥の造粒固化と有機性汚泥の堆肥化を行う中間処理施設の竣工式を行った。同社としては新規となる事業で、新事務所（本社）の建設を含めて約10億円を投資している。



施設は新規で設置している

造粒固化施設（北川鉄工所製）は処理能力が160立方メートル／日で、「汚泥（無機性汚泥に限る）」「鉱さい（カラミ、鋳物廃砂、サンドブラスト廃砂およびスラグに限る）」「ばいじん（石炭火力発電所から発生する石炭灰に限る）」を扱うことができる。場内には各品目に合わせた受入用のピット（各160立方メートル、計6カ所）も設置している。

造粒固化施設では、受け入れた廃棄物（無機性汚泥等）にセメント系固着材と水溶性ポリマーを添加し攪拌・造粒することで一定の強度を持つ再生路盤材



造粒固化施設

・再生砂を生産している。今後は、エコマーク認定取得に向けて手続を進めていく他、建設業界を中心に再生路盤材・再生砂の販売を強化していく。

堆肥化施設（中部エコテック製）は1基当たりの処理能力が4・5立方メートル／日（計2基）で、「汚泥（有機性汚泥に限る）」「木くず」「動植物性残さ」「動物のふん尿」を扱うことができる。場内には有機性汚泥等を保管するためのタンク（各20立方メートル、計2基）も設置している。

堆肥化施設では、受け入れた廃棄物（有機性汚泥等）を10日間にわたり発酵させ、堆肥化する。臭気については配管を通じて脱臭装置で処理する。すでに

水銀・PCB・DXN対応
汚染土壌処理
OHNO 0120-504-177
オオノ開発 株式会社 オオノ・アソシエーツ

飲食業界や小売業界等からの問い合わせが増え、今後堆肥の販売展開も含めた形で事業の安定化を図る。